

## 象牙質形成不全症患者をめぐって

発表者 大 沢 美 里  
歯科口腔外科一同

### I は じ め に

普段は、あまり深く接することが少なく軽視しがちな外来患者の中にも、色々の問題をかかえ、通院している人が多くいる。その中でも、象牙質形成不全症という非常に珍しい疾患をもち、又家庭的、経済的にも多くの問題をかかえている患者について取り上げ発表したいと思う。

### II 疾患について

象牙質形成不全症とは、骨形成不全の症候群に随伴して起こる場合と、単独に出現するものがあり、中胚葉性組織が障害されて起こる疾患である。本症は、常染色体性の優性遺伝を示し、非常に浸透性の高い疾患であり、同族家族内で1:1の発現率を示すか、あるいは、世代をとりこえることもあると考えられている。

#### 臨床的特徴

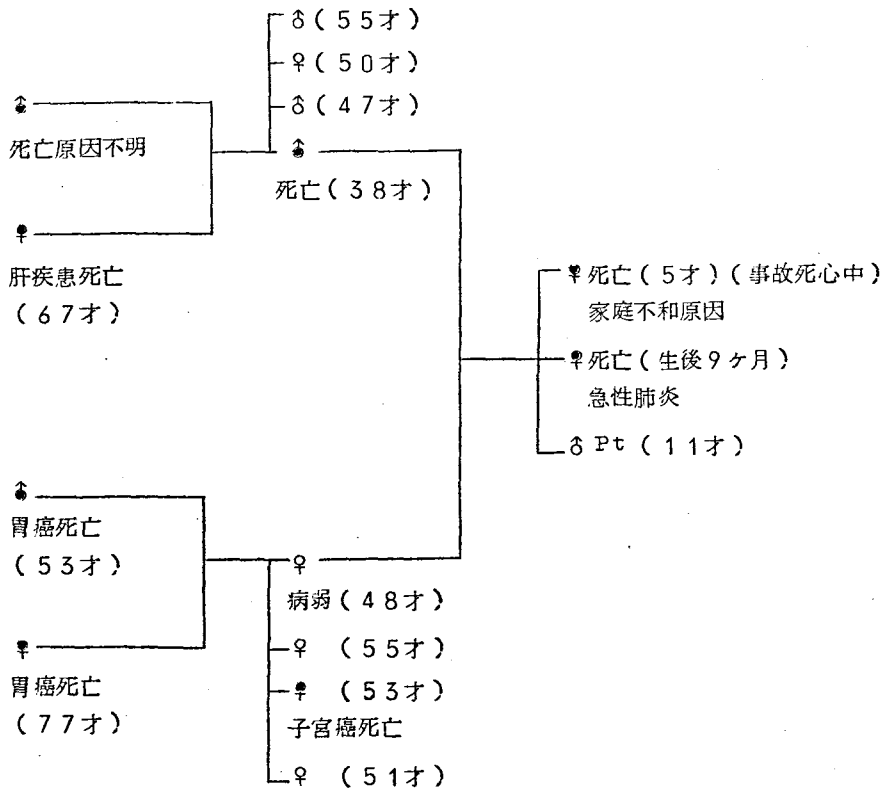
- 乳歯及び永久歯の両者の半透明の灰青色ないし褐色の変色。
- 歯牙は、早期に破折したり、過度の咬耗の傾向がある。
- エナメル質には、縦走する亀裂が多数みられる。
- 摘出歯胚の歯根は、既に透明度が高く歯髄を透視できる。

#### Ⅹ 線 診

- 歯髄腔の消失と、歯根は特異な球状を示している。

### III 症 例

1. 患 者 ○ 池 ○ 一 11才 男性
2. 主 訴 口腔内異和感
3. 家族歴 現在の家族構成 母親と本人



#### IV 既往歴

生下時体重 2600g 出生時仮死状態にて出産

生後5ヶ月 左大腿部骨折

2才 右ひじ骨折

8才 右大腿部骨折

#### V 現 症

全身の所見 身長125.8cm 体重25kg やせ型で栄養、体格ともに劣っている。

口腔内所見

11才の平均的歯牙

6 E 4 3 2 1	1 2 3 4 E 6	
6 E D 3 2 1	1 2 3 D E 6	
4 3 2 1	1 2 3 4 5	う蝕(一)
3 2 1	1 2 3	
6	6	C 4
6	6	A F
6 E	6	欠損
E D	D E	

乳歯 永久歯ともに半透明のオパール様で、紫がかった灰青色ないしは、褐色で透明度が高い。萌出した歯牙の電氣的診査により、生活反応を調べてみた結果、歯髓の反応は全く示されていない。

## V 患者の背景

- 妊娠中 姑の理解がなく、満足な食事が出来ず、御飯、味噌汁、漬物だけの食事のため、十分な栄養が取れずに、野良仕事に行っては、リンゴで空腹をしのいでいた。
- 分娩時 母親出血多量で、患者は仮死状態で出生した。
- 五ヶ月の時 父親と長女が死亡した。それまで母乳栄養であったが、ショックのために、母乳止まる。その後、3才まで粥食、ミルク、牛乳などを与えていた。この頃より食欲がなかった。
- 3才から大人と同じ食事を取るようになった。毎日牛乳とヤクルトは、1本ずつ飲んでいて、

現在の食事状態

朝食	御飯	1杯	昼食	御飯	1杯	普段は学校給食	夕食	御飯	2杯
	味噌汁	1杯		食	味噌汁			1杯	味噌汁
	きゅうりなどの野菜			全量摂取				納豆	

- 嗜好 間食あまりしない。

好きなもの チョコレート アイスクリーム ハンバーグ

嫌いなもの レバー 鶏肉 豚肉 硬いもの

- 歯の管理

歯みがきは、行なったり、行なわなかったりで、徹底していない。母親は、子供の時から歯が悪く、治療を行なっているが、口腔衛生についての知識が乏しく、子供に指導ができない。

- 経済状況

母親は会社員で、病弱なため、月収が20,000～30,000円で不定期で、また、小さな会社のために失業の心配がある。実家が、農家のために野菜、穀類などの援助を受けている。

患者の実態

1. 全身的な骨の発育不全がみられ、顎骨の脆弱が考えられる。さらに歯の質が弱く清掃に留意しても、う蝕にかかりやすい。
2. こうした性質のほかに、上下顎の発育不均衡に伴う不正咬合が著明で、咬合不全、咀嚼不全が強い。従って軟らかいものばかりを食べる習慣となり、咀嚼の習慣が形成されていない。
3. 咀嚼機能低下に基づいて、次のことが考えられる。唾液及び胃液の分泌で消化吸收不全、栄養障害ひいては心身の健全な発育の障害
4. 偏食の傾向については、以上述べた身体的な欠陥に加えて、食事形態が御飯と味噌汁だけの単調の食事であるための、倦怠によるものと考えられる。

## IV 看護上の問題点

### 1. 歯の管理について

- ・歯が弱く、欠損が多い。
- ・歯みがきの習慣が、できていない。

### 2. 食事について

- ・バランスのある栄養摂取が、できない。
- ・幼児期より、軟らかい物を食べ、咬むという習慣が、つけられていない。
- ・偏食の傾向がある。

### 3. 母子家庭で母親が病弱、低収入のために通院、治療費の心配がある。

- ・学校生活面についての学業の遅れや、運動範囲に対して心配がある。

### 4. 将来の問題として、母親は患者について健全の発育をするのか、又就職や結婚についても、大きな悩みをもっている。

## 対策

### 1に対して

- ① 歯の欠損の治療を進めて、咬合の調節を図る。
- ② よく咬んで食べるにより、唾液の分泌促進をはかり、口腔内の自浄作用の回復を図ること。
- ③ 果物や野菜を摂取することによって、歯口清掃を促進する。
- ④ 食後ぶくぶくうがいをする。
- ⑤ 歯ブラシ使用の習慣をつけさせる。

以上五つを目標に指導した。

現在今だ、①の義歯作成などの問題については、完成されていないが、来院当初は歯垢沈着が著しく、清掃状態が不良であったが、数回にわたって指導の結果、歯みがき（ローリング法）や、うがいに興味を示し、実施するようになり、歯垢沈着も減少してきた。1日1回は、必ずみがき、1日2回みがく日も多くなった。

### 2に対して

食事調査からも明らかのように、栄養のある食事が摂取できていないので、栄養のバランスを考えた調理の工夫をする様に進めたが、母親の話で軟らかいものばかり食べ、偏食のあることがわかったが、さらに食事に変化がないことも原因と考えられた。そこで、食事のマナーをなくすことが必要と感じ、食事をたのしく、そしてバラエティーに富んだものとし、更に手近なものでも栄養を考えた食事を作るように進めた。

### 3に対して

母子共に病弱であり、更に、失業の心配もあるので、生活保護の受給が望ましいと考え進めてみたが、母親は、世間体や患児への将来の影響、過去に民生委員に相談した所、断わられた等の理由で、自分でできる限り努力したい気持ちがあり、生活保護を受ける決心がつかない様であるが、何とか説得して受ける様に進めている。

#### 4に対して

疾病について担任教師に理解してもらい様連絡を密にし、学業の遅れや、運動、体育について配慮してもらい様にする。又受診日は土曜日とし、学業の遅れを少なくするように図った。運動はできる範囲内に許可し、健康な子供と共に遊べる様にし、母親には、あまり神経質にならない様に説得した。

#### 5に対して

母親は病弱の上、家庭不和による父親の不慮の死、妊娠中の栄養不足、そのために与えた患児への影響などについて、現在大きな不安をもっている。更に、こうしたことが患者の心理的、肉体的発育に影響を及ぼすのではないかと心配している。又患児の将来について、肉体労働が出来ない。或いは、遺伝的な心配などをいだいているが、これに対して、私達の力の及ばない点が大きいことを痛感したが、しかし、肉体労働が出来なければ、事務系の仕事へと話し合い、希望をもつようにした。

現在、母親の希望もあり、ソロバン塾へ通りようになっている。遺伝については、現在、染色体型の検査中で、まだ不明である。

#### おわりに

このケースの場合、来院当初は、患者が食欲がなく、軟らかいものばかり好んで食べることが、偏食や咀嚼機能低下の理由と考えていた。しかし再度の面接の結果、その原因が貧困にもあり、殆ど毎日御飯と味噌汁の単調な食事を摂取しており、母親は、栄養が必要であることを知りながらも、満足に与えることも出来ず、又「栄養」ということに誤解をし、恐れていることも知った。この症例は指導の途中であり、患者とのコミュニケーションを持つまで時間を要し、更に、適当な援助を続けたいと考えている。以上象牙質形成不全症患者を取り上げてみましたが、このほかにも、外来にこのように多くの問題をかかえている患者があり、沢山の患者がいる中で、短時間で入れかわり、立ちかわり訪ずれている患者と1：1で接することが少ない外来看護での難しさを感じると同時に、看護サービスを必要とする患者に対して、診療の合間ではあるが、積極的に指導していく必要性を強く感じた。